

2016年度 後期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	建築・デザイン学科							
科目名	物理学							
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年次			
必修・選択の別	選択							
担当者	堀英祐							
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・速度と加速度の定義を正確に知り、実生活の中で遭遇する現象と関連付けて説明する。</li> <li>・重力による物体の自由落下や放物運動を数式やことばで説明する。</li> <li>・単振動と単振り子についての運動方程式をたてるとともに、それらの解の特徴を知る。</li> <li>・慣性モーメントの定義を正確に知り、その物理的な意味を数式やことばで説明する。</li> <li>・理想気体の等温過程と断熱過程における体積・圧力・温度の関係を説明する。</li> <li>・熱機関の原理を説明し、その効率を計算する。</li> </ul>							
日程と内容	第1回 はじめに・建築環境工学と物理・物理の単位 第2回 重力と運動 第3回 運動の法則 第4回 力 第5回 仕事と力学的エネルギー 第6回 熱とエネルギー 第7回 気体の性質と分子運動 第8回 気体の状態変化 第9回 熱機関と熱効率 第10回 波の伝わり方 第11回 音波 第12回 光 第13回 電流 第14回 発電と送電・蓄電 第15回 まとめと総括							
成績評価基準	定期試験	60%	実技	0%	臨時試験	0%	部外評価	0%
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%	課題	40%		
	演習	0%	計	100%				
授業到達目標の達成度	授業到達目標のうち、「単振動と単振り子についての運動方程式をたてるとともに、それらの解の特徴を知る。」を除き、概ね達成できた。							
反省点	初年度の授業であったため、受講生の理解度を確認しながら授業を進行した。その結果、当初の予定の内容全てを終えることができなかった。講義内容の取捨選択が必要である。							
来年度の計画	物理の基礎として教えると受講者が難しく捉えてしまうようなので、物理を学ぶというよりも、建築分野で応用出来る考え方を身につけられるように、講義内容を工夫したい。							
授業評価アンケートに対するコメント	講義内容は、物理の基礎的な内容としているが、受講生にとっては難しいと感じているようなので、より丁寧な説明が必要だと感じた。演習問題は理解を高める効果が確認ができたので、続けていきたい。							
履修登録者数	54名	定期試験 受験者数	52名	合格者数	40名	合格率	77%	